

# 報道記事から見る 岐阜の偉人たち

斎藤道三	明智光秀	古田織部	下田歌子	名和靖	原富太郎	高木貞治	荒川豊蔵	杉原千畝
------	------	------	------	-----	------	------	------	------

# はじめに

地方紙は地域情報の宝庫です。原紙の劣化が進む中、地域における地方紙の役割の重要性に鑑みて、地方紙の「デジタルアーカイブ化」は、きわめて重要な課題です。そもそも地方紙における創刊以来の紙面の保存意識は高く、原紙での保存、マイクロフィルムでの保存が行われてきました。しかし、デジタルデータの保存と公開には著作権・肖像権・人権などの課題があります。また、紙面のデジタル化、校閲、メタデータの付与、公開には人手と資金が必要となります。データベースの構築には構築費、メンテナンス費、維持費なども必要です。

幸い、岐阜地域の代表的な地方紙である岐阜新聞は記事のデジタル化が進められており、データベースも公開されており、記事の検索が可能となっています。

一方、新聞記事のデジタル化が進んでも、過去の記事の「デジタルデータ」を誰が、どのように利用するのかは明らかになつていません。地方新聞の「デジタルデータ」の利活用に関しては、我が国ではほとんど研究が進んでいないと言つても過言ではないのです。

そこで、本研究では岐阜新聞社とタイアップし、過去の紙面の「デジタルデータ」の具体的な活用事例を示す」としました。

研究の対象としたのは、岐阜県にゆかりのある偉人たちです。岐阜県ゆかりの偉人といえば、「ダヤ難民にビザを発行して多くの人命を救った杉原千畝、横浜市の財界リーダーとして活躍した原富太郎、多治見市出身で人間国宝になった荒川豊蔵、恵那郡岩村出身で女子教育の母といわれる下田歌子、戦国武将では、斎藤道三、明智光秀など、歴史の教科書にも名前を残した県ゆかりの偉人が数多くいます。こうした偉人の中から、岐阜県や日本国の経済・文化の向上に寄与した九人を取り上げました。過去の報道記事や写真からこれらの人たちの想いや人となりを調査し、文献やフィールドワークによつて得られた知見を追加して報告書にまとめました。

研究の実施にあたり、岐阜女子大学と岐阜新聞社が手を携えて共同研究を進めることができたのは、有益なことだったと思います。

本事業の実施に当たり、岐阜新聞社代表取締役社長の矢島薰氏をはじめ、岐阜新聞社の関係者の方々、本学地域文化研究所の丸山幸太郎教授、辻公子講師に大変お世話になりました。また、調査と取材にご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

令和二年一月

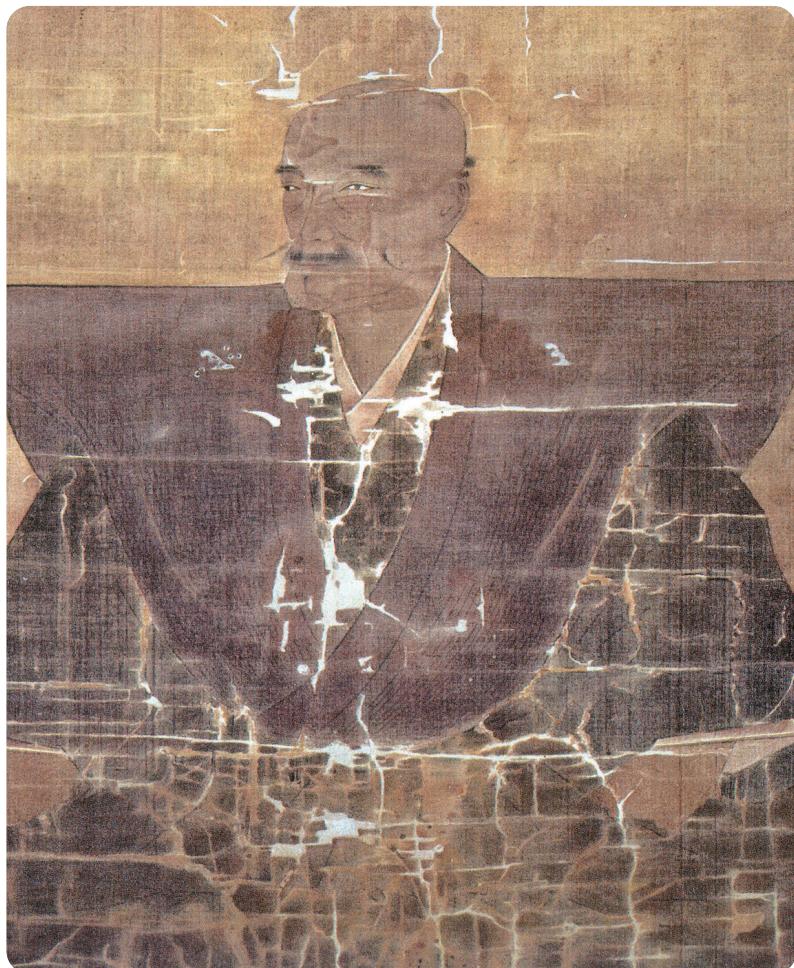
岐阜女子大学 三宅茜巳

報道記事から見る  
岐阜の偉人たち

I N D E X

斎 藤 道 三	03P
明 智 光 秀	13P
古 田 織 部	23P
下 田 歌 子	33P
名 和 靖	43P
原 富 太 郎	55P
高 木 貞 治	67P
荒 川 豊 藏	81P
杉 原 千 敵	91P

さいとうどうさん  
斎藤道三



- 父子二代で、美濃の国盗りをする
- 主君を次々滅ぼしてのし上がった戦国の梶雄きょう ゆう
- 御園樂市場みそのらくいちばを設定するなど、経済に明るい
- 政治力は豊か
- 信長の天下統一力を見抜く眼を持っていた
- 幅広い識見を持ち諸芸を秀でた文化大名で、光秀や信長の育ての親
- 娘帰蝶さきちょうの婿信長に美濃を譲るとする

# 国盗り父子二代説と出生

斎藤道三は、山城国出身の油売りで、諸国を廻り美濃へ着くと、武家に仕官したが、仕えた主君を次々滅ぼして、ついに美濃国の国主になつた戦国の梶雄として名高い。

ところが、一九七三（昭和四八）年、『岐阜県史史料編古代中世四 県外文書』の編纂で、横浜市鶴見区の春日慎一郎所蔵の「永禄三年六角承楨義賢書状」（息義弼宛）が発見され、収載され、注目された。当時、道三によつて美濃を逐われた土岐頼芸が亡命中の近江六角氏のもとにいた時で、その時美濃国主斎藤義龍の娘と義弼との政略結婚話が進んでいた。土岐家と幾重にも縁戚関係を重ねてきた六角氏が、主君土岐氏当主頼芸を逐うよつな斎藤家と縁戚關係を結ぶことは避けるべきといつ趣旨の書状であった。その中で、頼芸から得た道三家の歴史が書かれていた。それによつて、次のようなことが判明した。

